

3

パソコンを持ち歩く

パソコンをバッテリー駆動で使用するときの、
バッテリーの使い方について説明します。

- 1 バッテリーを使う 112
- 2 バッテリーを節約する 120

1 バッテリーを使う

バッテリーを充電して、または充電したバッテリーパックと交換して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

ご購入時には、バッテリーはフル充電されていません。

本製品をはじめてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

⇒ バッテリーの充電 ⇨ 「1章 4 バッテリーの充電」

⇒ バッテリーパックの交換 ⇨ 「本節 4 バッテリーパックを交換する」

また、本製品には標準添付のバッテリーパックのほかに大容量バッテリー（別売り）が用意されています。

⇒ 大容量バッテリー ⇨ 「4章 10 大容量バッテリーを使う」



メモ

・大容量バッテリーパック（別売り：PABAL001）も使用できます。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリー充電量を確認しておかないと使用中にバッテリーの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわてて電源コードを接続することになります。

バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

● Main Battery □ LED で確認する


ACアダプタを接続したとき、Main Battery □ LED が緑色に点灯すれば充電完了です。オレンジ色に点灯している場合は、バッテリーパックの充電量が減ってきていると考えられます。

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

⇒ Main Battery □ LED ⇨ 「1章 4-3 バッテリーに関する表示」

● アイコンで確認する

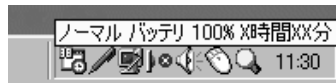
● Windows 98 の場合

タスクバーの省電力アイコン () の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



ACアダプタを接続していない場合



(表示例)



このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。ACアダプタを接続していない場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・省電力ユーティリティの [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

● Windows 95 の場合

タスクバーのバッテリーメーターアイコン ( または ) の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合




ACアダプタを接続していない場合



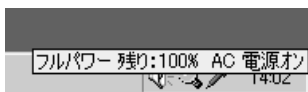
(表示例)

また、ダブルクリックすると、バッテリーメーターの画面が表示されます。バッテリーメーターアイコンが表示されていない場合は、[コントロールパネル]-[パワーマネージメント]をダブルクリックすると、電源のプロパティが表示されます。[タスクバーにバッテリーの状態を表示] をチェックすると、タスクバーにバッテリーメーターアイコンを表示します。

● Windows 2000 の場合

タスクバーの省電力アイコン () の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

AC アダプタを接続している場合



AC アダプタを接続していない場合



(表示例)



このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・省電力ユーティリティ ([コントロールパネル] - [省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

● Windows NT の場合

タスクバーのバッテリーインジケータアイコン ( または ) の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

AC アダプタを接続している場合



AC アダプタを接続していない場合




(表示例)

また、ダブルクリックすると、バッテリーメーターの画面が表示されます。

② 時計用バッテリー

本製品には取りはずし可能なバッテリーパックのほかに、内蔵バッテリーとして、時計用バッテリーがあります。時計用バッテリーは、内蔵時計を動かすためのものです。

時計用バッテリーの充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用可能です。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時間
ACアダプタを接続している (Power  LED が点灯)	10 時間以上



メモ

- ・時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用している場合は、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

③ バッテリーの使用時間

電源として使われるバッテリーの使用時間は、充電量や使用状態により差があります。







- 注意** ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの容量に十分注意してください。
- バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続して、一度全バッテリーを充電してください。

● バッテリーでの使用時間

バッテリーでの使用時間は、本パソコンの使用環境によって異なります。次の数字は目安です。

充電完了の状態で使用した場合

省電力モード	標準 バッテリーパック	標準バッテリーパックと 大容量バッテリーの両方
フルパワー	約 1.6 時間	約 7.0 時間
 98  2000 ロングライフ  95  NT ローパワー	約 1.7 時間	約 7.3 時間

(注) 当社オリジナルプログラムで計測





☞ 大容量バッテリーについて ☜ 「4 章 10 大容量バッテリーを使う」

パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリーは自然に放電します。この場合も放置環境などに左右されますので、放置時間は目安として参考にしてください。

フル充電したバッテリーパックをパソコン本体に取り付け、電源を切った状態で放置した場合、放電しきるまでの時間：約 18 日間



お願い

- ・スタンバイ ( **95**  **NT** サスペンド) 機能が有効の場合、バッテリーの取りはずしはしないでください。取りはずすとスタンバイ (サスペンド) 機能が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・スタンバイ ( **95**  **NT** サスペンド) 機能が有効の場合、放電しきるまでの時間は約 2 日になります。




メモ

- ・ハイバネーション機能が有効の場合、バッテリーパックをパソコン本体から取りはずしておいた方が、バッテリーの放電時間は長くなります。



● バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリー充電量の減少が進むと、パソコン本体は次のように警告します。

Main Battery  LED がオレンジ色の点滅を始める


警告音が鳴る

この場合はただちに AC アダプタを接続してください。

AC アダプタを接続しない場合、スタンバイ ( **95**  **NT** サスペンド) 機能またはハイバネーション機能により、パソコン本体の電源は自動的に切れます。引き続きバッテリー駆動で使用するときは、バッテリーを充電してください。



メモ

・長時間使用しないでバッテリーが自然に放電してしまったときは、警告音でも Main Battery  LED でも知ることができません。



お願い

・パソコン本体をバッテリー駆動で使うときは、定期的に充電してください。
 ・ACアダプタをコンセントにつなげたままで放置しないでください。
 ・バッテリーパックは長期間使用すると充電機能が低下します。これはバッテリーの寿命ですので、別売りのバッテリーパックと交換してください。

4 バッテリーパックを交換する

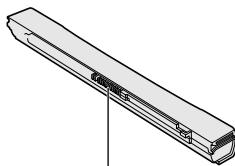
本製品には標準でバッテリーパックが取り付けられています。このバッテリーパックは着脱可能で、約 500 回程度の充電をすることができます。長期間の使用の後、充電機能が低下するようになったら、別売りのバッテリーパックと交換してください。この別売りのバッテリーパックの取り扱いが標準装備のバッテリーパックとまったく同じです。

このパソコン対応の製品以外のバッテリーパックは使用しないでください。



注意

- ・バッテリーパックの電極や、バッテリーパックを取り付けるパソコン側の電極をショートさせないでください。また、バッテリーパックをバックなどに入れて持ち運ぶときは、ビニールなどに包んで、電極が金属にふれないようにしてください。電極がショートすると発熱、発火などのおそれがあります。
- ・バッテリーパックを加熱したり、分解したり、ショートさせたり、火の中へ投入したりしないでください。破裂や火災のおそれがあります。
- ・バッテリーパックをすてる場合は、ショート防止のため、電極に絶縁テープぜつえんを貼るなどの対策をこうじてください。そのままの状態ですてると、破裂や火災のおそれがあります。



バッテリーパックの電極



バッテリーパック用電極

● バッテリーパックの取りはずし / 取り付け

⚠ 警告 ・バッテリーパックは、必ずこのパソコン対応の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙・火災のおそれがあります。使用済みのバッテリーパックの処理は、地方自治体の条例または規則に従ってください。



お願い

・スタンバイ (**95** **NT** サスペンド) 機能を実行してもバッテリーパックを取りはずすとスタンバイ (サスペンド) 機能が無効になるため、データは消失します。データを保存し、Windows を終了してから、バッテリーパックを取りはずしてください。

1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

Windows 98 / 95 / 2000 の場合、ハイバネーション機能を実行して電源を切り、バッテリーパックの取りはずし / 取り付けを行うこともできます。

⇨ ハイバネーション機能 ⇨ 「2 章 3 電源を切る」

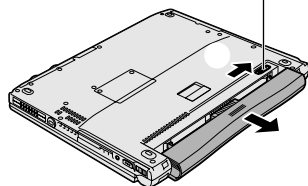
2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす

3 ディスプレイを閉じて、パソコン本体を裏返す

4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら、バッテリーパックを取りはずす

ゆっくり引いてください。

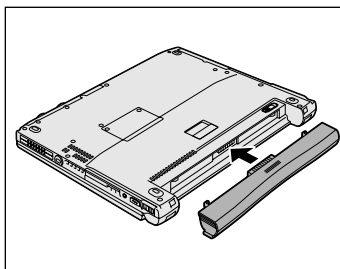
バッテリー・リリースラッチ



⚠ 注意 ・バッテリーパックは、無理な力を加えずに静かに取りはずしてください。いきおいよくはずすと、バッテリーパックが足の上などに落ち、思わぬケガのおそれがあります。

5 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む

バッテリー・リリースラッチが左へ移動します。



注意 ・バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく装着されていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。


2 バッテリーを節約する

バッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

バッテリーの充電を完了（フル充電）する

バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく

スタンバイ（ サスペンド）またはハイバネーション機能

（）を活用し、こまめに電源を切る

スタンバイ（サスペンド）やハイバネーション機能とは、電源を切った後、次に電源を入れると、以前の状態を再現することができる機能です。

☞ スタンバイ（サスペンド）機能 / ハイバネーション機能

☞ 「5章 1 消費電力を節約する」

パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

☞ パネルスイッチ機能 ☞ 「2章 3 電源を切る」

省電力に設定する

☞ 省電力設定 ☞ 「5章 1 消費電力を節約する」



メモ

・バッテリー駆動時、CPU は 500MHz 相当の周波数で動作します。
600MHz で動作させる場合は、AC アダプタの接続が必要です。

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

- 1** 作業の前に 122
- 2** 機能を拡張する 123
- 3** PC カードを使う 128
- 4** フロッピーディスクを使う 134
- 5** モデムを電話回線へ接続する
 (モデム内蔵モデル)..... 138
- 6** LAN に接続する (LAN 内蔵モデル)... 140
- 7** USB 機器を接続する 151
- 8** IEEE1394 機器を接続する
 (モデム内蔵モデル)..... 152
- 9** メモリを増設する 154
- 10** 大容量バッテリーを使う 158

1 作業の前に

周辺機器の組み合わせにより、本製品の可能性は大きく広がります。この章では、周辺機器の接続について説明します。本書で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け / 取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各項を読んでから作業してください。



注意

- ・ホットインサージョン（パソコン動作中の取り付け / 取りはずし）が認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。電源を入れたまま接続すると、感電・故障のおそれがあります。
- ・パソコン本体に周辺機器を取り付けた状態で持ち運ばないでください。故障の原因となります。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿気やホコリが少なく、直射日光の当たらない場所で作業してください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業しないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさにあったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその後のサポートは受けられません。



メモ

- ・本書で説明している周辺機器や機能を使用するには別途市販の機器が必要な場合があります。

パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して接続してください。

- ・PCカードやコネクタの上下を合わせる
- ・固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジを締める

周辺機器を使用するときは、このほかに作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をお読みください。



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

2 機能を拡張する

本製品右側面の拡張コネクタには、別売りの、I/O アダプタ、ミニ I/O アダプタ、マルチメディアポートリプリケータのいずれかを接続して使用することができます。



お願い

・上記の機器のいずれかを接続している場合、CRT ディスプレイはパソコン本体ではなく、接続した機器側の RGB コネクタに接続してください。

I/O アダプタ

I/O アダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

セントロニクス (パラレル) インタフェースのプリンタ

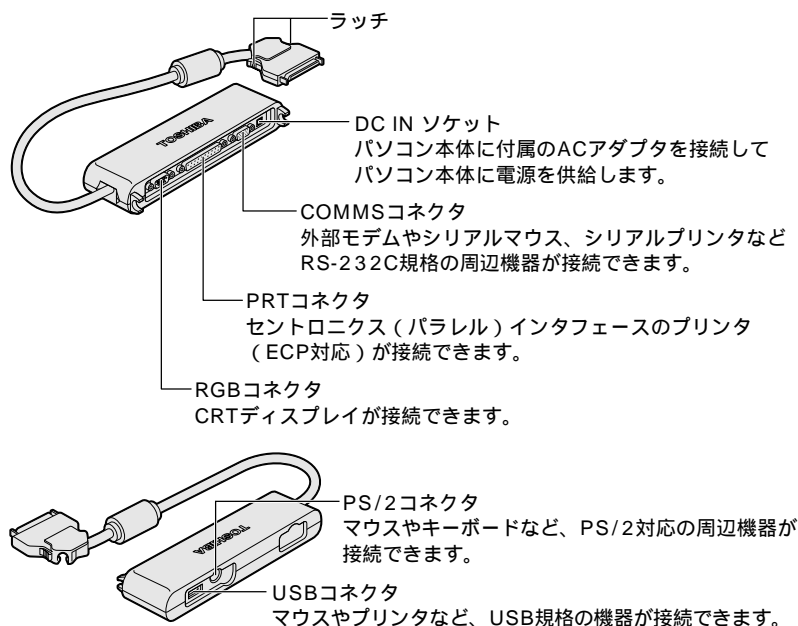
RS-232C 規格の周辺機器 (シリアルマウスや外付けモデムなど)

CRT ディスプレイ

PS/2 マウスやキーボード

USB 規格の周辺機器

DC IN ソケットには、パソコン本体に付属の AC アダプタを接続して使用できます。AC アダプタと電源コードを接続すると、I/O アダプタを通して、パソコン本体に電源を供給することができます。

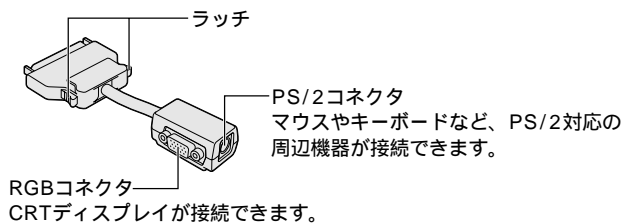


● ミニ I/O アダプタ

ミニ I/O アダプタを接続することで、次の周辺機器が使用できます。

CRT ディスプレイ

PS/2 マウスやキーボード



● マルチメディアポートリプリケータ



お願い

・パソコン本体にマルチメディアポートリプリケータを接続して使用する場合は、必ずマルチメディアポートリプリケータの電源コネクタに AC アダプタを接続してください。パソコン本体の電源コネクタに AC アダプタを接続すると、正しく動作しません。
また、バッテリー駆動で使用すると、パソコンの電源が切れる場合があります。



メモ

・Windows NT モデルでは、別売りのフロッピーディスクドライブ以外の USB 機器は使用できません。
・システムに Windows 2000 / NT をお使いの場合は、ドライバのインストールが必要です。詳細は [スタート] - [はじめに] をクリックして《リリース情報》をご覧ください。

マルチメディアポートリプリケータを接続すると、次のような使い方ができます。

AC アダプタを接続して、パソコン本体に電源を供給する

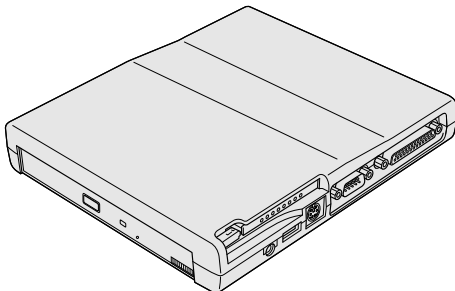
CD-ROM ドライブを使用する

ハードディスクドライブ（別売り）と交換できます。

周辺機器を使用する

- ・RS-232C 規格の周辺機器
- ・セントロニクス（パラレル）インタフェースのプリンタ
- ・CRT ディスプレイ
- ・PS/2 マウスやキーボード
- ・USB 規格の周辺機器
- ・PC カード（Type または の CardBus 対応のカード）
- ・オーディオ機器

LAN に接続する




⇐ 詳細について ⇨ 『マルチメディアポートリプリケータに付属の説明書』

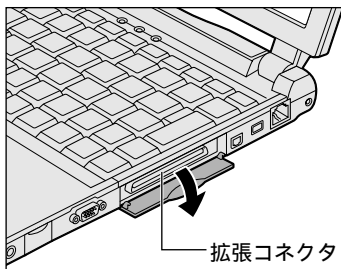
2000 NT 《リリース情報》

● 取り付け

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

 注意 ・本パソコンに電源が入っている状態で、別売りの機器の取り付け / 取りはずしをしないでください。故障の原因となります。

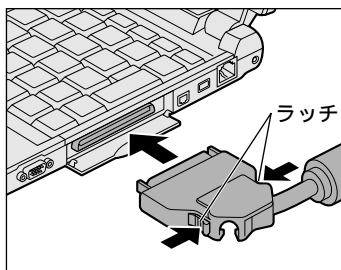
- 2 パソコン本体のコネクタカバーを開く



- 3 接続ケーブルのコネクタを、上下を確認し接続する

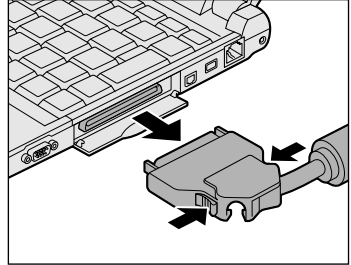
コネクタはラッチを押しながら取り付けてください。

*イラストはI/Oアダプタのケーブルです。



● 取りはずし

- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 パソコン本体から接続ケーブルを取りはずす
コネクタのラッチを押しながら取りはずしてください。
ケーブルを引っ張らないようにしてください。
- 3 コネクタカバーを閉じる



3

PC カードを使う

PCカードスロットには、PC Card Standard TYPE / / (3.3V、5V)に対応したPCカードを2枚まで取り付けることができます(TYPE の場合は、1 枚のみ)



PCカードスロット1(上段)

PCカードスロット0(下段)

PCカードリリースレバー0

PCカードスロット0に入っている
PCカードを取り出します。

PCカードリリースレバー1

PCカードスロット1に入っている
PCカードを取り出します。



注意

・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから取り付けてください。電源を入れたまま取り付けると、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。



メモ

- ・ホットインサージョン
パソコン本体の電源を入れたままで、PC カードの取り付け / 取りはずしをすることをいいます。ただし、PC カードによっては、この機能に対応していないものもあります。
- ・Windows NT をお使いの場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」がインストールされていますので、ホットインサージョンやプラグアンドプレイを行うことができます。ただし、PC カードによってはこれらの機能に対応していない場合があります。また、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をアンインストールした場合、ホットインサージョンやプラグアンドプレイを行うことはできません。
 - ☞ 詳細について
 - ☞ [スタート]-[プログラム]-[CardWizard for Windows NT]-[最初に必ずお読みください]
- ・市販されている PC カードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードと一緒に使用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。

使用できる PC カードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上段)	TYPE /
0 (下段)	TYPE / /

PC カードの例を次にあげます。

- ・モデムカード
- ・SCSI アダプタ
- ・フラッシュメモリ
- ・LAN カード
- ・CardBus 対応のカード



メモ

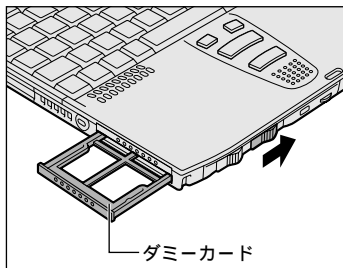
- ・スロット 0 に TYPE の PC カードを取り付けた場合には、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

☞ 『PC カードに付属の説明書』

● 取り付け

1 PCカードリリースレバーを右へスライドする

ダミーカードが出てきます。



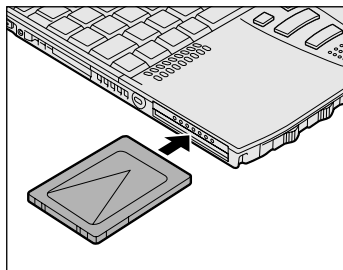
2 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように、保管してください。

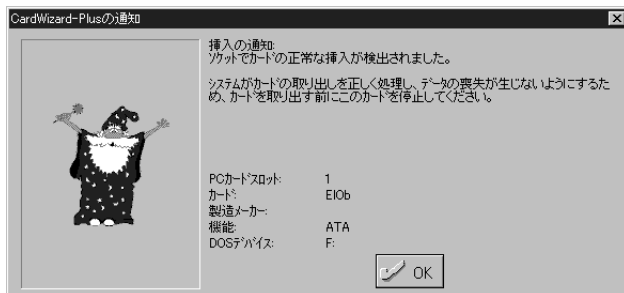
3 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する

PCカードを確実に接続するために、無理な力を加えずに、PCカードがつきあたるまで、静かに押してください。

PCカードが十分に押し込まれるとPCカードリリースレバーが左に移動します。



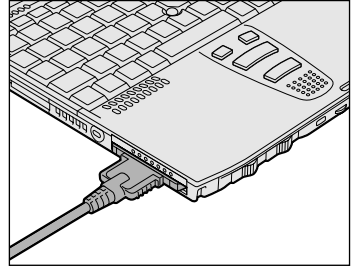
NT 「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」からカードが挿入されたことを知らせるメッセージが表示されますので、[OK] ボタンをクリックしてください。



(表示例)

4 PCカードにケーブルをつける

LANカードなど、ケーブルが必要なカードの場合は、ケーブルを接続してください。



カードを接続した後、カードを使用できる環境かどうかを確認してください。

☞ PCカードの環境の設定 ☜ 『PCカードに付属の説明書』



注意

- ・ケーブルを取り付けたまま、持ち運ばないでください。ケーブルのコネクタが破損するおそれがあります。



お願い

- ・ケーブルを取り付けた状態で、ケーブルを強く引っ張らないでください。PCカードが抜けることがあります。

● 取りはずし



注意

- ・PCカードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
- ・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ず電源を切ってからPCカードを取りはずしてください。電源を入れたまま取り付けると、パソコンやPCカードが故障するおそれがあります。




お願い

- ・PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから、取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を終了する



[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]の[PCカードのプロパティ]画面で終了するPCカードを選び、[停止]( [終了]) ボタンをクリックします。

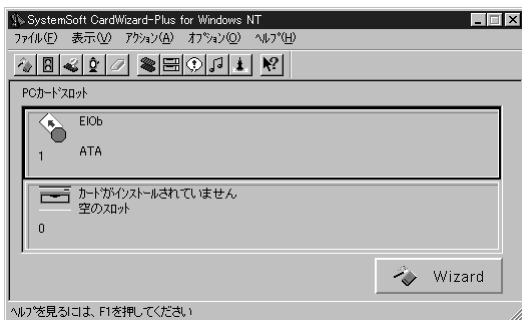
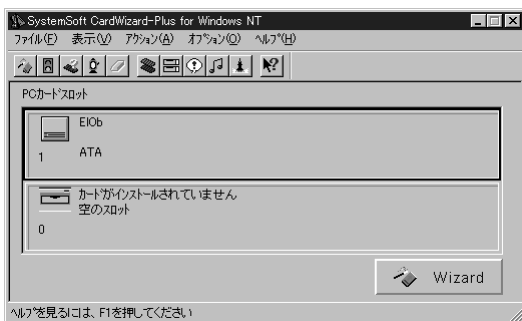
2000

タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンを右クリックし、表示されるメニューの [ハードウェアを取りはずすかまたは取り出す] をクリックします。

NT

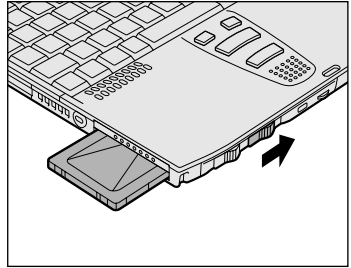
タスクバーにある [CardWizard] アイコンをダブルクリックし、表示される画面で終了する PC カードスロットを選び、右クリックして表示されるメニューの [停止] ボタンをクリックします。

PC カードスロットの表示が変わり、取りはずせることを知らせる音が鳴ります。

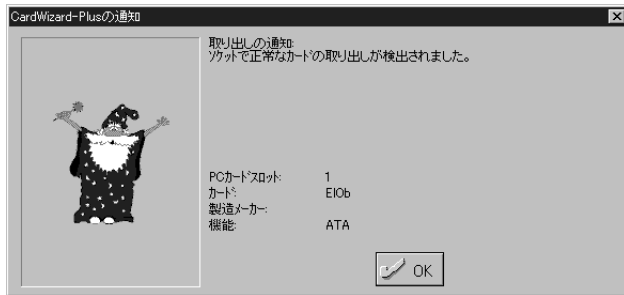


(表示例)

- 2** PCカードリリースレバーを右にスライドする
カードが少し出てきます。



- NT** 「CardWizard-Plus」より、取り出しの通知メッセージが表示されます。



(表示例)

- 3** カードをしっかりとつかみ、引き抜く
4 ダミーカードを挿入する

4 フロッピーディスクを使う

本製品には、USB 接続タイプのフロッピーディスクドライブが用意されています（LAN 内蔵モデルの場合は別売り）。

フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

1 フロッピーディスク

● 使用上のお願い

フロッピーディスクは消耗品です。キズがついた場合は交換してください。フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。

フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。

汚れると使用できなくなります。

スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。

記録した内容が消えるおそれがあります。

直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。

本やノートなど重いものを上に置かないでください。

使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5 ~ 35	4 ~ 53

ラベルは正しい位置に貼ってください。

貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。

ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。

保管の際は、プラスチックケースに入れてください。

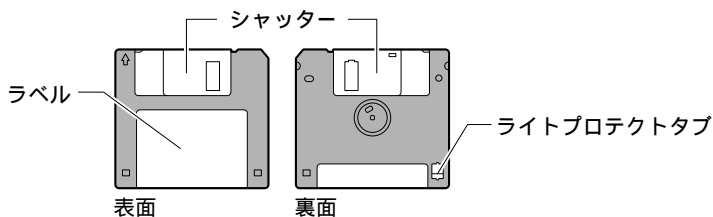
食べ物、タバコ、消しゴムのカスの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

3.5 型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。
 他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

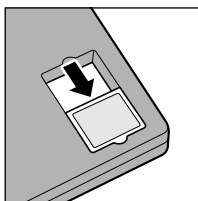
製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

● ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。

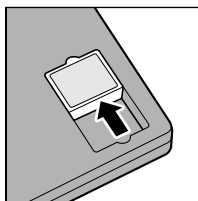


書き込み禁止状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。
 この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。
 データの読み取りはできます。

書き込み可能状態



ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。
 この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

② フロッピーディスクドライブ

LAN 内蔵モデルの場合は別売りです。



● 使用上のお願い

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。

フロッピーディスクドライブを、斜めや垂直、上下逆さまに置いた状態で使用しないでください。必ず水平に置いて使用してください。

データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブ、パソコン本体が壊れる可能性があります。

フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。

データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。

フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。

フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを入れたまま持ち運ばないでください。



注意 ・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（フロッピーディスクドライブのLEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、ケーブルを抜いたりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

フロッピーディスクドライブの取り付け/取りはずしの方法については「本章 7 USB 機器を接続する」をご覧ください。

● フロッピーディスクから起動する場合

フロッピーディスクから起動する場合は、次の設定を行なってください。

● Windows 98 / 95 の場合

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックし、[Toshiba Hardware Setup]をダブルクリックする
- 2 [USB]タブで[USB -FDD Legacy Emulation]を「Enabled」に設定する



メモ

- ・通常は[USB -FDD Legacy Emulation]を「Disabled」に設定しておいてください。
- ・起動フロッピーディスクのCONFIG.SYSにEMM386.EXEの行がある場合は、「X=EC00-EFFF X=C000-CFFF」を追加してください。CONFIG.SYSの例（下線部を追加してください）
DEVICE=A:¥EMM386.EXE RAM X=EC00-EFFF X=C000-CFFF

● Windows 2000 / NT の場合

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックし、[HWセットアップ]をダブルクリックする
- 2 [USB]タブで[USB-FDD Legacy Emulation]を[有効]に設定する



メモ

- ・通常は[USB-FDD Legacy Emulation]を[無効]に設定しておいてください。

本製品には、モデルによってモデムが内蔵されています。
 内蔵モデムを使用する場合に、2線式の電話回線に接続します。
 本製品の内蔵モデムは、次の国で使用できます。

アイルランド、アメリカ合衆国、イギリス、イタリア、オーストラリア、
 オーストリア、オランダ、カナダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、
 スペイン、デンマーク、ドイツ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、
 フィンランド、フランス、ベルギー、ポルトガル

公衆回線網の通信規格は各国によって異なりますので、ご使用になる国にあわせて内蔵モデムの国設定が必要です。
 ご購入時は「日本」に設定されています。

☞ モデムの国設定

⇒ 《オンラインマニュアル-内蔵モデム用国選択ユーティリティ》

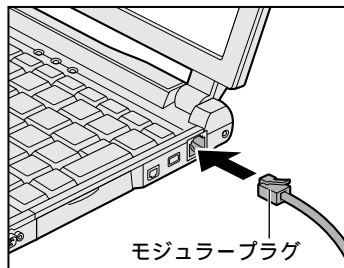


お願い

・モジュラーケーブルの取り付け/取りはずしは、パソコンの電源を切った状態で行なってください。

● 取り付け

- 1 モジュラーケーブルを使い、モジュラープラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む



- 2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラージャックに差し込む



注意

- ・内蔵モデムは使用できる国や地域が限定されています。指定以外の国、地域でモデムを使用すると故障のおそれがあります。使用できる国や地域をよくご確認のうえ、ご使用ください。
- ・内蔵モデムは一般電話回線（アナログ回線）に接続して使用してください。デジタル回線（ISDN回線など）には使用できません。デジタル回線対応の公衆電話のデジタル側やデジタル式交換機（PBX）へ接続すると、故障のおそれがあります。ホームテレホンやビジネスホン用の電話回線には絶対に接続しないでください。



お願し

- ・モジュラープラグをモジュラージャックに接続するときは、「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。
- ・市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- ・回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体と電話機用モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグを抜く

本製品の LAN 内蔵モデルには、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応した LAN インタフェースが内蔵されています。本製品の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet、Ethernet であるかを検出し、自動的に切り替えます。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項を説明します。

① 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

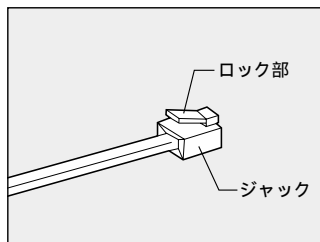
10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

② LAN ケーブルの接続



お願い

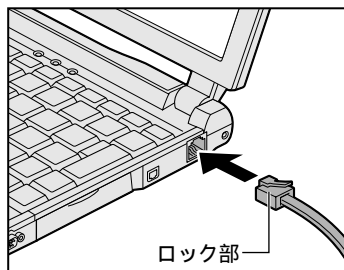
・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのジャックを右側面の LAN コネクタに差し込む

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のジャックを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 Windows 98 / 95 のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows 98 / 95 の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意

・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows 98 / 95 のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows 98 / 95 のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

画面の表示例は Windows 98 の画面です。Windows 95 の場合は異なります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定 (S)] - [コントロールパネル (C)] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする



- 3** [ネットワークの設定] タブをクリックし、変更を行う
コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内の
アダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ... ほかのコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。
通信する複数のコンピュータどうしは、
同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハード
ウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタ
などのリソースを、ほかのコンピュータ
から使えるようにします。

- 4  98 [識別情報]  95 [ユーザー情報] タブをクリックし、コンピュータ名、ワークグループ名をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)



注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



5 [アクセスの制御] [アクセス権の管理] タブをクリックし、変更を行う



ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

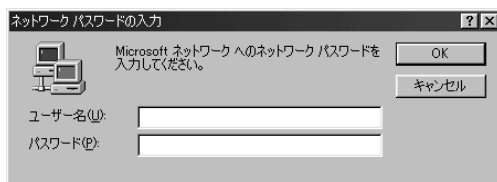
6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります(ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

4 Windows 2000 のネットワ - ク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意

・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまう、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [ネットワークとダイヤルアップ接続]アイコンをダブルクリックする
- 3 [ロ - カルエリア接続]アイコンにマウスポインタを合わせて右クリックする
- 4 表示されるメニューから [プロパティ] を選択する
- 5 ネットワ - ク接続の設定を行う



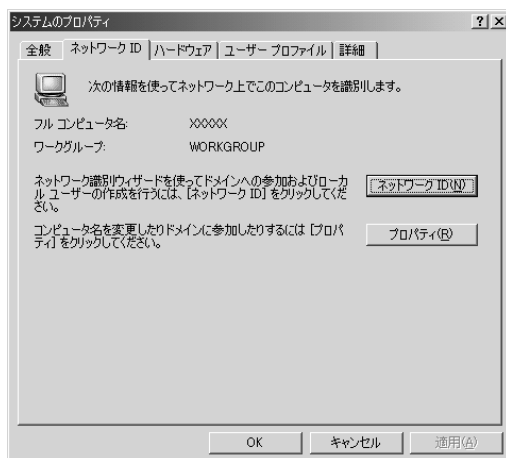
セットアップ時に設定した構成になっています。

本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

- アダプタ : Intel 8255x-based PCI Ethernet Adaptor (10 / 100)
- クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
- サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
- プロトコル : TCP/IP (自動取得)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [システム] アイコンをクリックする
- 3 [ネットワーク ID] タブを選択する



- 4 ネットワーク ID とプロパティの設定をする
- コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。
- 変更する場合はここで再設定してください。

5 Windows NT のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

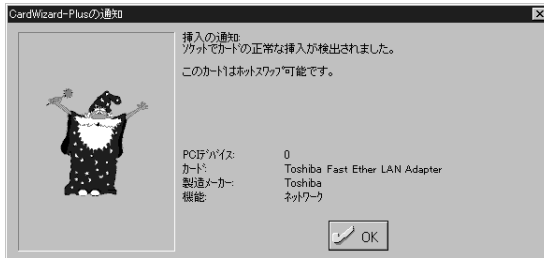


お願い

・ネットワークの設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

● ネットワークの設定

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージが表示されます。「カード」、「ソケット」など、メッセージが PC カード向けの内容になっていますが、動作には問題ありません。



- 2 [OK] ボタンをクリックする
- 3 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 4 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする

次の画面が表示されます。



(表示例)

5 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う

詳細は『Windows のヘルプ』([スタート] - [ヘルプ])をクリックする)をご覧ください。

なお、ご購入時、およびリカバリ CD で標準システムを復元したときは Windows NT Service Pack6 がインストールされた状態になっています。また、ご購入時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ : Toshiba Fast Ether LAN Adapter
プロトコル : NetBEUI
識別 : WORKGROUP
コンピュータ名 : 初期セットアップ時に入力した名前



メモ

- ・プロトコル等を追加する場合「いくつかの Windows NT ファイルをコピーする必要があります」というダイアログボックスが表示される場合があります。
この場合は、ダイアログボックスのファイル検索場所に「C:\i386」と表示されていることを確認して [OK] ボタンを押してください。
- ・詳細については、Windows NT のヘルプを参照してください。

注意 ・TCP/IP プロトコルの追加などネットワークの設定を変更した場合には、一部のファイルが古いバージョンに置き換わることがあります。設定完了後、Windows NT Service Pack6 をインストールしてください。

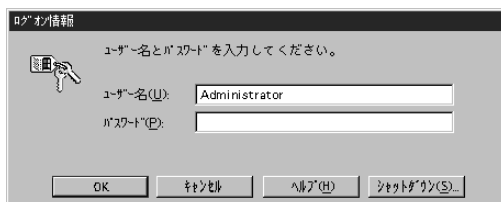
☞「本項 Service Pack6 のインストールについて」

起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります (ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログオンするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



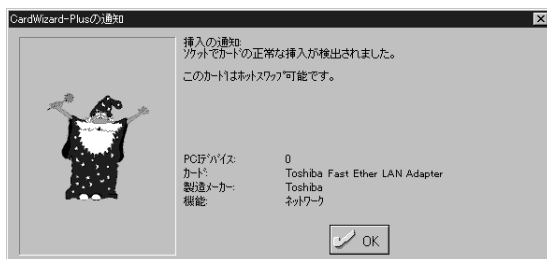
メモ

・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

ログオンすると次の画面が表示されます。

これは、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージです。

メッセージの内容が PC カード向けになっていますが、動作には問題ありません。



3 [OK] ボタンをクリックする

● Service Pack6 のインストールについて

LAN などのドライバ / プロトコルを追加 / 変更した場合には、Service Pack6 を再度インストールしなければなりません。

なお、Service Pack6 をインストールすると一部のファイルが置き換えられてしまい、正常に動作しなくなるアプリケーションがあります。

インストールの際は次の手順に従ってください。



お願い

・詳細については、《オンラインマニュアル》をご覧ください。

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする**
- 2 東芝パワーマネージメントシステムをアンインストールする**
アンインストールが完了した後は、必ず再起動してください。
- 3 デスクトップにある「Service Pack6 セットアップ」アイコンをダブルクリックする**
Service Pack6 のインストールが始まります。画面の指示に従ってインストールを行なってください。
インストールが完了した後は、必ず再起動してください。
- 4 東芝パワーマネージメントシステムを再インストールする**
インストールが完了した後は、必ず再起動してください。

7 USB 機器を接続する

本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。

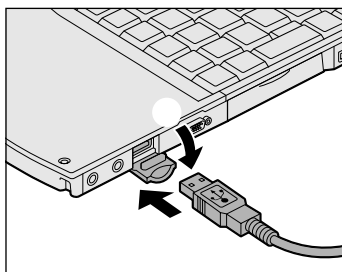
別売りの I/O アダプタまたはマルチメディアポートリプリケータを接続した場合も、USB 機器を使用することができます。

⇒ 「本章 2 機能を拡張する」

* Windows NT モデルでは、別売りのフロッピーディスクドライブ以外の USB 機器は使用できません。

● 取り付け

- 1 USB コネクタカバーを開け、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む
手順 2 が必要ない機器もあります。



お断り

- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS)、および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。

● 取りはずし

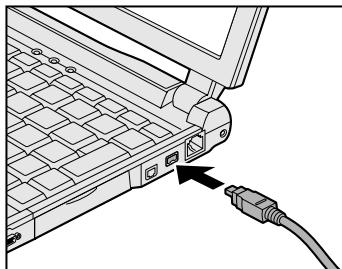
- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

⇒ USB 機器についての詳細 ⇒ 『USB 機器に付属の説明書』

本製品のモデム内蔵モデルには、IEEE1394 規格の機器を取り付けることのできる、IEEE1394 コネクタが用意されています。

取り付け

- 1 IEEE1394 ケーブルのプラグをパソコン本体の IEEE1394 コネクタに差し込む



- 2 IEEE1394 ケーブルのもう一方のプラグを IEEE1394 機器に差し込む



お願い


- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状と向きに注意して正しく差し込んでください。
コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。
- ・IEEE1394 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・すべての IEEE1394 対応の周辺機器の動作確認は行なっておりません。従って、すべての IEEE1394 機器の動作を保証するものではありません。
- ・IEEE1394 ケーブルは規格に準拠したもの (S100,S200,S400 対応) をご使用ください。
詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- ・2m 以上の長さの IEEE1394 ケーブルは使わないようにしてください。
- ・取り付ける周辺機器によっては、スタンバイ機能またはハイパネーション機能が使用できなくなる場合があります。
- ・IEEE1394 機器を接続してアプリケーションから使用している間は、IEEE1394 機器の取り付け / 取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。その場合のデータが内容は保証できません。



メモ

- ・デジタルビデオカメラからの画像取り込みや書き戻しは、AC アダプタを接続した状態で行うことをおすすめします。コマ落ちが発生する場合は、ディスクのデフラグを行う、または他のアプリケーションを終了させてください。

● 取りはずし

- 1 タスクトレイの [ハードウェアの取りはずしシステムトレイ] アイコン () をクリックする
- 2 取りはずす IEEE 1394 機器を選択する
- 3 「デバイスをコンピュータから取りはずしても安全です」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする
- 4 パソコン本体と IEEE 1394 機器に差し込んである IEEE 1394 ケーブルを抜く



メモ

・デジタルビデオカメラを取りはずすときは、手順 1 ~ 3 は必要ありません。

☞ IEEE 1394 機器についての詳細 ⇨ 『IEEE 1394 機器に付属の説明書』





9 メモリを増設する

本製品には、標準で 64MB のメモリが取り付けられています。増設メモリ（別売り）を使用することにより 192MB まで拡張することができます。





警告 ・説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一ふれると危険です。



- 注意**
- ・増設メモリを取り付け / 取りはずしする場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグとバッテリーパックを抜いてから作業を行ってください。またスタンバイ（  サスペンド）中またはハイバネーション中は、増設メモリの取り付け / 取りはずしは、行わないでください。
電源を入れたまま取り付け / 取りはずしをすると、感電、故障のおそれがあります。
 - ・増設メモリを取り付け / 取りはずしする場合は、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。
 - ・パソコン本体の使用直後は、本体内部にふれないでください。本体内部が高温になっている場合があります、やけどをするおそれがあります。増設メモリの取り付け / 取りはずしは、電源を切った後 30 分以上たってから、行うことをおすすめします。
 - ・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。



お願い

- ・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に、静電気を逃してから作業を行ってください。手近にある金属性のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
- ・スタンバイ（  サスペンド）またはハイバネーション機能を設定したまま増設メモリの取り付けを行うと、スタンバイ（サスペンド）またはハイバネーション機能は無効になります。
- ・増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご使用ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

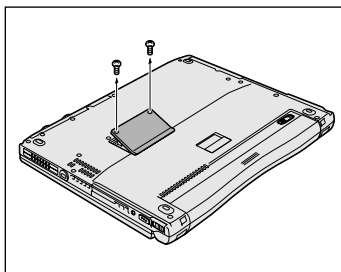
● 取り付け

- 1 データを保存して、Windowsを終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- 4 増設メモ리카バーのネジをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。



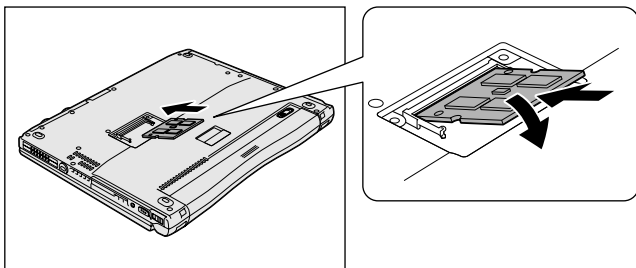
- 5 増設メモ리카バーを取りはずす



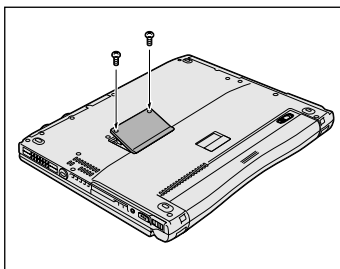
注意 ・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機械内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機械内部に金属類が入った場合は、電源を切りプラグを抜いて、お買い上げの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

- 6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し、固定するまで増設メモリを倒す



増設メモリのコネクタを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。



7 増設メモリカバーを取り付けて手順4ではずしたネジでとめる



8 バッテリーパックを取り付ける



パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいか「PC診断ツール」(  HW セットアップ) などで確認してください。

☞ 「PC診断ツール」☞ 《オンラインマニュアル》

● 取りはずし



警告

・増設メモリを取りはずす場合は、必ず電源を切り、ACアダプタと電源コードおよびバッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。また、スタンバイ (  サスペンド) 中またはハイバネーション中は、増設メモリの取りはずしは、行わないでください。

電源を入れたまま取りはずすと、感電、故障のおそれがあります。

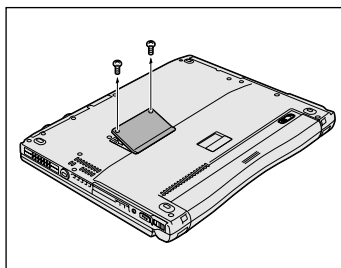
1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

2 ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

☞ バッテリーパックの取りはずし☞ 「3章 1-4 バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジをはずす



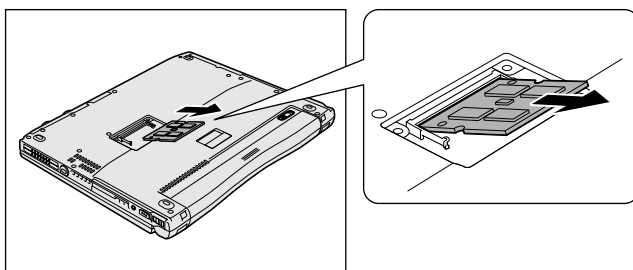
お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。

5 増設メモリカバーを取りはずす

6 増設メモリを固定している左右のフックを開き、増設メモリを増設メモリスロットから取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



7 増設メモリカバーを取り付けて、手順4ではずしたネジでとめる

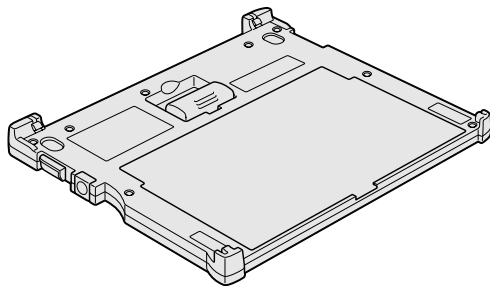
8 バッテリーパックを取り付ける

☞ バッテリーパックの取り付け ☞ 「3章 1-4 バッテリーパックを交換する」

10 大容量バッテリーを使う

本製品には、標準添付のバッテリーパックのほかに、大容量バッテリー（別売り）が用意されています。

標準バッテリーパックと大容量バッテリーを同時に使用することにより、長時間バッテリー駆動で 사용할 ことができます。




充電方法、充電時間、バッテリーでの使用時間については、標準バッテリーパックとあわせて説明していますので、参照ください。

☞ 充電方法や充電時間 ☞ 「1 章 4 バッテリーの充電」

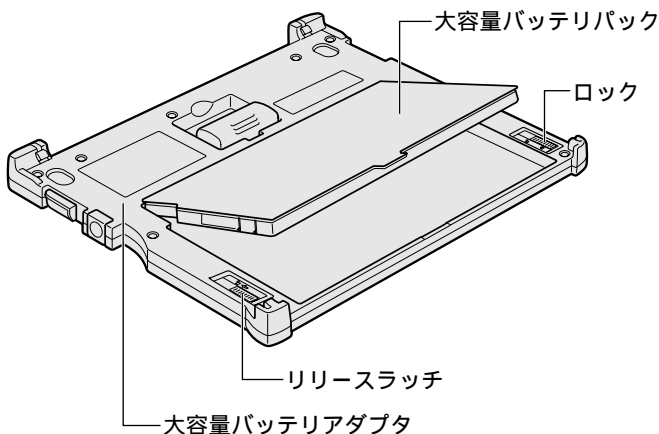
☞ バッテリーでの使用時間 ☞ 「3 章 1-3- バッテリーでの使用時間」



お願い

- ・スタンバイ（ サスペンド）機能を実行しているとき、標準バッテリーパックと大容量バッテリーの両方を取りはずすとスタンバイ（サスペンド）機能が無効になるため、データは消失します。

① 大容量バッテリーパックの取り付け / 取りはずし



● 取り付け

- 1 大容量バッテリーパックを、大容量バッテリーパックアダプタに合わせて斜め上から差し込む
- 2 カチッと音がする位置にはめ込む
大容量バッテリーパック左のリリーススラッチが手前に移動します。
- 3 大容量バッテリーパック右側のロックを手前にスライドする
大容量バッテリーパックアダプタにロックされます。

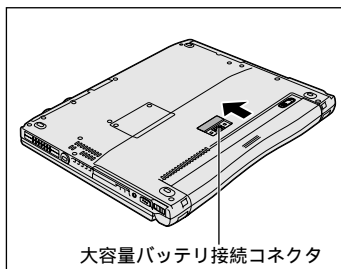
● 取りはずし

- 1 パソコン本体に大容量バッテリーを接続している場合は、パソコン本体の電源を切り、大容量バッテリーを取りはずす
☞ 「本節 2 パソコン本体への取り付け / 取りはずし」
- 2 大容量バッテリーパック右側のロックを奥側にスライドする
大容量バッテリーパックアダプタへのロックが解除されます。
- 3 大容量バッテリーパック左側のリリーススラッチを奥側にスライドし、大容量バッテリーパックの手前を持ち上げる
- 4 大容量バッテリーパックをしっかりとつかみ、手前に引き抜く

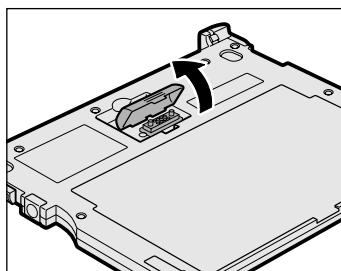
② パソコン本体への取り付け / 取りはずし

● 取り付け

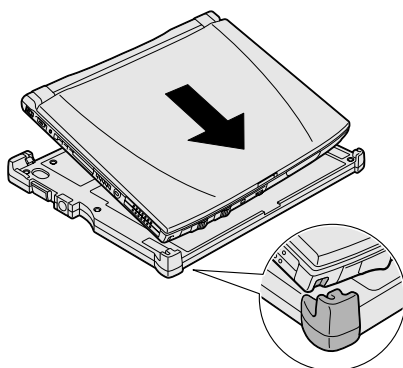
- 1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る
- 2 AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 3 パソコン本体を裏返し、大容量バッテリー接続コネクタのカバーを開く



- 4 大容量バッテリーのコネクタカバーを開く

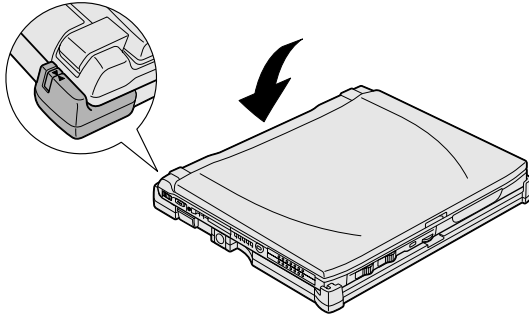


- 5 パソコン本体前面のへこみに、大容量バッテリーの両端のツメをはめる



6 パソコン本体の背面を押す

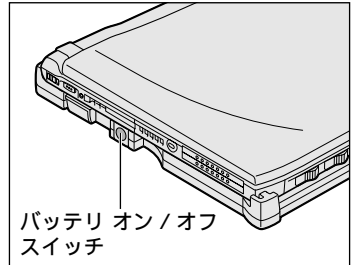
背面にある大容量バッテリーのラッチがはまるのを確認してください。きちんとはまると図のように▶と◀が重なります。



注意 ・大容量バッテリーはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときに大容量バッテリーがはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

7 大容量バッテリーのバッテリー オン / オフ スイッチを押す

スイッチがへこみ、大容量バッテリーが使用可能な状態になります。



● 取りはずし

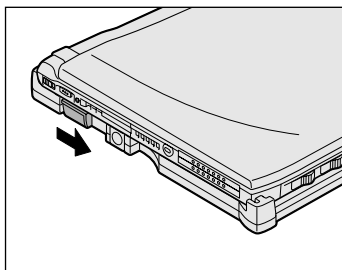
1 データを保存して、Windows を終了し、パソコン本体の電源を切る

2 AC アダプタや周辺機器のケーブルをはずす

3 イジェクトレバーをスライドする

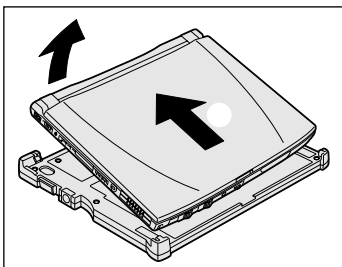
パソコン本体が少し持ち上がります。

レバーは大容量バッテリーの背面にあるラッチがはずれるまできちんとスライドしてください。へこみに指を合わせると楽にスライドできます。



4 大容量バッテリーからパソコン本体を取りはずす

パソコン本体の背面中央を上を持ち上げます。



5 パソコン本体の大容量バッテリー接続コネクタのカバーを閉じる

6 大容量バッテリーのコネクタカバーを閉じる

5

便利な機能

- 1** 消費電力を節約する 164
- 2** 簡単インターネット (モデム内蔵モデル)... 185
- 3** Toshiba Hardware Setup
 / HW セットアップ 187

1 消費電力を節約する

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

Windows では使用目的や環境に合わせて電源管理に関する設定を行うことができます。

例えば、会社で事務に使用する場合はすばやくコンピュータ処理を実行したい、外出先でバッテリーを使用する場合は少しでも長い時間使用したいと思うでしょう。それらの使用環境を記憶し、簡単に変更できれば便利です。このような複数の使用環境を省電力モードとして設定したり、省電力モードの切り替え機能を提供します。

省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。


ご使用のシステムの「省電力ユーティリティ」をご覧ください。

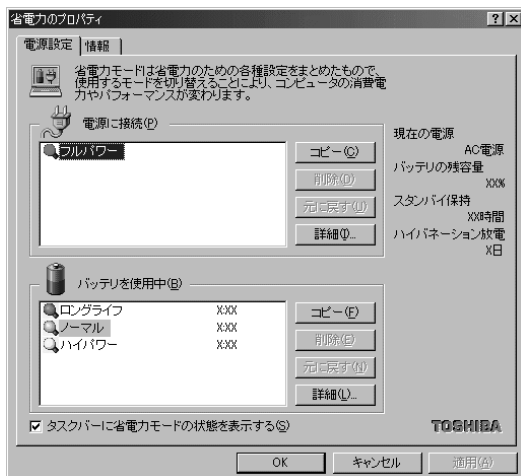
1 省電力ユーティリティ (Windows 98)

● 起動方法

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

2 [省電力]をダブルクリックする

タスクバーの省電力アイコン()をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)

● [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。

また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続][バッテリーを使用中]には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリーを使用中]はACアダプタに接続している/していない状態によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の4つの省電力モードが用意されています。すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続](ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中](バッテリーを使用するとき)がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する
作成した省電力モードの詳細を設定します。
☞ 「本項 省電力モードの詳細設定」

● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする



メモ

- ・[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[OK] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。
- ・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

● [情報] タブ

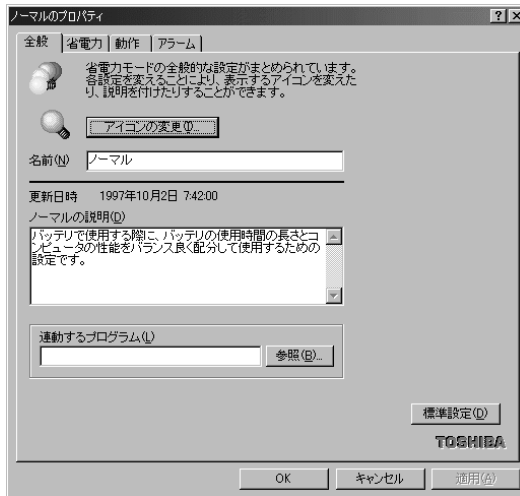
バッテリー残容量の変化やバッテリー残量、パソコンの温度などの情報を表示します。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



(表示例)

● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPU、PCカードなどに対する省電力設定を行います。



メモ

- ・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリーのみで使用しているときは、ACアダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイパネルを閉じたとき、システムスタンバイのときの動作を設定します。



メモ

- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。



お願い

- ・次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・誤った使い方をしたとき
 - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・長時間使っていなかったために、バッテリーが消耗したとき
 - ・故障、修理、電池交換のとき
 - ・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき
 - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け / 取りはずしをしたとき

ハイバネーション機能

パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。



お願い

- ・ハイバネーション中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ドライブ C を、Windows のシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、ハイバネーション機能が使用できなくなります。ハイバネーション機能を使用する際は、元の状態に復元してください。
- ・ハイバネーション中に増設メモリの取り付け / 取りはずしを行わないでください。ハイバネーション機能が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・ハイバネーション機能が有効（[電源の管理] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、ハイバネーション機能を実行して電源を切ります。ハイバネーション機能が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、ハイバネーション機能を有効にしておくことをおすすめします。

シャットダウン機能

Windows 98 を終了して電源を切ります。

スタンバイ状態から回復するときパスワードの入力を求めるここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイ状態やハイバネーション状態から復活できないようになります。

● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。



メモ

- ・ここで表示しているアラームの設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。


② 省電力ユーティリティ (Windows 95)

ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度、各ポート電源の制御などを設定します。

● 起動方法

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

2 [省電力]をダブルクリックする

タスクバーの省電力アイコン()をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)

● [省電力モード] タブ

● 省電力モード

バッテリー使用時、ACアダプタ使用時それぞれ別々に設定可能です。次の省電力モードが用意されています。

フルパワーモード

省電力制御を行いません。システムの初期状態でACアダプタを使用するときには、このモードに設定されています。

ハイパワーモード

性能を優先して省電力制御を行います。

メディアムパワーモード

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。システムの初期状態でバッテリーを使用するときには、このモードに設定されています。

ローパワーモード

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ユーザ設定モード

各パワーモードとは別に省電力設定を自由に設定できます。

基本的な4つのモード以外の省電力設定を行うときは、このモードを使用してください。

省電力モードを選択して[詳細設定]ボタンを押すと、選択した省電力モード設定の確認および変更ができます。

● [詳細設定] ボタン

このボタンを押すと、選択している各省電力モードに対する細かい省電力設定を行う画面を表示します。

各タブでは次のことが設定できます。

[ディスプレイ] タブ

キーボード、アキュポイント およびマウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的に消して、消費電力を少なくします。バックライトとディスプレイの両方とも消すので、画面表示に使用する電力を最少にすることができ、もっとも省電力の効果があります。

また、画面の輝度(バックライトの明るさ)を下げることによっても省電力の効果があります。



メモ

・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリーのみで使用しているときは、ACアダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

[HDD] タブ

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクのモータを停止させて、消費電力を少なくします。

ハードディスクがオフの状態、ハードディスクへのアクセスが発生すると、ハードディスクが使用できるようになるまで、しばらく時間がかかります。また、さらに省電力効果を向上させ、使い勝手を良くするために監視設定機能があります。

[CPU] タブ

CPU処理速度を切り替えるなどの、CPUの制御処理を行い、消費電力を減らすことができます。

また、CPUが過熱したときには、CPU処理速度を自動的に低速にして過熱防止を行います。

[システム] タブ

再起動の方法と、システム自動オフ時間を設定できます。

システム自動オフ機能とは、キーボード、アキュポイント、マウス、ハードディスクなどを一定時間使用していないときに、自動的にサスペンドまたはハイバネーション機能を実行して、システムの電源を切る機能です。[サスペンド/レジューム] のチェックをオンにすると [システム自動オフ時間] で設定できます。



メモ

- ・ CD-ROM の自動挿入機能が有効になっている場合は、システム自動オフ機能が働きません。Windows の「デバイスマネージャ」で CD-ROM の自動挿入機能を無効にしてください。
- ・ 既定値は次のようになっています。
フルパワーモード : ブート
それ以外のモード : サスペンド/レジューム
ブート、サスペンド/レジュームの切り替えは、タスクバー上の省電力アイコンでも変更できます。

パネルスイッチ機能

[サスペンド/レジューム] を選択し、[パネルを閉じたときサスペンド、開いたときレジュームする] をチェックしてオンに設定すると、パネルスイッチ機能を使用できます。パネルスイッチ機能とは、ディスプレイパネルを閉じた際に自動的にサスペンドを行い、その状態でディスプレイパネルを開けるとレジュームを行なってディスプレイパネルを閉じる前の状態に戻す機能です。

ハイバネーション機能

[サスペンド/レジューム] を選択し、[ハイバネーション機能を有効にする] をチェックしてオンに設定すると、パソコン本体の電源を切ったときに、ハイバネーション機能が働きます。

ハイバネーション機能とはパソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容をハードディスクに保持する機能です。次にディスプレイを開くと、以前の状態を再現します。ハイバネーション機能は、パソコン本体に対しての機能です。周辺機器（プリンタなど）に対しては働きません。

このハイバネーション機能を使うと、次の利点があります。

- ・ バッテリーを使い切って、パソコンの電源が切れてもデータが保存できる
- ・ システムの状態を再現できる
- ・ こまめに電源を切ることで節電できる



お願い

- ・ハイバネーション中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ドライブCを、市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、ハイバネーション機能が使用できなくなります。ハイバネーション機能を使用する際は、元の状態に復元してください。
- ・ハイバネーション中に増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。ハイバネーション機能が無効になり、データが消失するおそれがあります。

サスペンド機能

[サスペンド/レジューム] を選択して、[ハイバネーションを有効にする] のチェックがオフのとき、パソコンの電源を切るとサスペンド機能が有効になります。

サスペンド機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します(ハイバネーション機能を使用した場合よりも早く復帰します)。



お願い

- ・次のような場合はサスペンド機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・誤った使い方をしたとき
 - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・バッテリーが消耗したとき
 - ・故障、修理、バッテリー交換をしたとき
 - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・増設メモリの取り付け/取りはずしをしたとき

[その他] タブ

本製品は、次のような通信デバイスに対して、自動省電力機能を提供しています。

PC カードタイプの通信デバイス：モデムカード

ISDN カード

シリアルアダプタカード

通信デバイスの自動省電力機能とは、通信していない間の通信デバイスへの電源供給を自動的に最低限に抑える機能です。

これらの機能は、ユーザに意識させずに行われます。


PC カードの省電力制御の設定は省電力ユーティリティで行うようにし、[コントロールパネル]-[パワーマネジメント]-[PCカードモデム]での設定は行わないでください。



メモ

・各タブにある [既定値] ボタンを押すと、各項目を出荷時の設定状態に戻します。

● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると、現在の省電力モードを示す省電力アイコン  がタスクバーに表示されます。チェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

● [タイマオン機能] タブ

タイマオン機能の設定を行います。

タイマオン機能とは、指定した時刻、日付に、パソコンを自動起動する機能です。

指定できる日時は、設定当日より 1 年間です。

時刻の設定

タイマオン機能を有効にするとき、チェックして設定をオンにします。

自動的に電源を入れる時間を設定してください。

日付の設定

自動的に電源を入れる日にちを指定する場合は、チェックして日付を設定してください。



メモ

・日付のチェックがオフの状態では、タイマオンの実行時刻は、現在以降の 24 時間の間になります。

たとえば、現在時刻が 15:30 の場合

時刻を 16:30 に設定すると、当日の 16:30 に自動起動を行います。

時刻を 15:00 に設定すると、翌日の 15:00 に自動起動を行います。

・日付のチェックをオンにすると、タイマオンの実行日時は、当日から翌年の昨日までの 1 年間になります。

たとえば、現在の日時が「2000 年 12 月 12 日 10:00」の場合

日付の設定を 12 月 12 日に、時刻の設定を 10:30 に設定した場合、

当日 (2000 年 12 月 12 日) の 10:30 に自動起動を行います。

日付の設定を 11 月 12 日に、時刻の設定を 10:30 に設定した場合、

「2001 年 11 月 12 日 10:30」に自動起動を行います。

日付の設定を 12 月 12 日に、時刻の設定を 9:30 に設定した場合、

エラーとなります。


● ヘルプの開き方

省電力ユーティリティの詳細については、省電力ユーティリティのヘルプをご覧ください。

- 1 [スタート]-[プログラム]-[東芝ユーティリティ]-[省電力設定ヘルプ]をクリックする
省電力ユーティリティのヘルプが開きます。

③ 省電力ユーティリティ (Windows 2000)

● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [省電力]をダブルクリックする
タスクバーの省電力アイコン () をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)

● [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。

また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続][バッテリーを使用中]には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリーを使用中]はACアダプタに接続している/していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続](ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中](バッテリーを使用するとき)がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する
作成した省電力モードの詳細を設定します。
☞ 「本項 省電力モードの詳細設定」

● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする



メモ

- ・[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[OK] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。
- ・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンを右クリックすることにより、省電力ユーティリティを開くことができます。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする



(表示例)

● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、ファンに対する省電力設定を行います。



メモ

- ・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリーのみで使用しているときは、ACアダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイパネルを閉じたとき、システムアイドルのときの動作を設定します。



メモ

- ・「電源ボタンを押したとき」「コンピュータを閉じたとき」には、[電源オプション]-[休止状態]タブで[休止状態をサポートする]がチェックされている場合は、ハイバネーション機能が使用できます。
- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する]ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

スタンバイ機能とは、電源がオンの状態で表示画面をオフにし、CPUおよび他のデバイスが休止している状態です。次に電源スイッチを押すと、以前の状態がすばやく再現されます。



お願ひ

- ・次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・誤った使い方をしたとき
 - ・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・バッテリーが消耗したとき
 - ・故障、修理、電池交換のとき
 - ・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき

ハイバネーション機能

ハイバネーション機能とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には動きません。



お願ひ

- ・ハイバネーション中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ハイバネーション機能が有効([電源オプション]-[休止状態]タブの[休止状態をサポートする]がチェックされている)の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、ハイバネーション機能を実行して電源を切ります。ハイバネーション機能が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、ハイバネーション機能を有効にしておくことをおすすめします。

シャットダウン機能

Windows 2000 を終了して電源を切ります。

スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求めるここにチェックを入れると、Windows のパスワードを入力しないとスタンバイ状態やハイバネーション状態から復活できないようになります。

[アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。


4 省電力ユーティリティ (Windows NT)

省電力のための設定を行います。

● 起動方法

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

2 [省電力]をダブルクリックする

タスクバーの省電力アイコン()をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)

● [省電力モード] タブ

● 省電力モード

省電力モードには次の5つが用意されています。

フルパワーモード

パソコンを最大パワーで使用します。システムの初期状態で AC アダプタを使用するときには、このモードに設定されています。

ハイパワーモード

性能を優先して省電力制御を行います。

ミディアムパワーモード

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。システムの初期状態でバッテリーを使用するときには、このモードに設定されています。

ローパワーモード

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ユーザ設定モード

各パワーモードとは別に省電力設定を自由に設定できます。

基本的な 4 つのモード以外の省電力設定を行うときは、このモードを使用してください。

省電力モードを選択して [詳細設定] ボタンを押すと、選択した省電力モード設定の確認および変更ができます。

● [詳細設定] ボタン

このボタンを押すと、選択している各省電力モードに対する細かい省電力設定を行う画面を表示します。

各タブでは次のことが設定できます。

[ディスプレイ] タブ

キーボード、アキュポイント およびマウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的に消して、消費電力を少なくします。バックライトとディスプレイの両方とも消すので、画面表示に使用する電力を最少にすることができ、もっとも省電力の効果があります。

また、画面の輝度（バックライトの明るさ）を下げることによっても省電力の効果があります。



メモ

・ディスプレイを最高輝度に設定していても、パソコン本体をバッテリーのみで使用しているときは、AC アダプタを接続したときより画面が多少暗く表示されます。

[HDD] タブ

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクのモータを停止させて、消費電力を少なくします。

ハードディスクがオフの状態、ハードディスクへのアクセスが発生すると、ハードディスクが使用できるようになるまで、しばらく時間がかかります。

また、さらに省電力効果を向上させ、使い勝手を良くするために監視設定機能があります。

[CPU] タブ

CPU 処理速度を切り替えるなどの、CPU の制御処理を行い、消費電力を減らすことができます。

[システム] タブ

再起動の方法とスタンバイのタイミングを制御します。

サスペンド/レジュームを選択すると、システム自動停止機能やパネルスイッチ機能を利用することができます。それぞれ [システム] タブで設定する必要があります。

システム自動停止機能とは、キーボード、アキュポイント、マウス、ハードディスクなどを一定時間使用していないときに、自動的にサスペンド機能を実行して、システムの電源を切る機能です。

パネルスイッチ機能とは、パソコン本体のディスプレイを閉じたときに、自動的にサスペンド機能を実行してシステムの電源をオフにし、ディスプレイを開けたときに自動的に電源をオンにする機能です。



メモ

・既定値は次のようになっています。

フルパワーモード : Boot

それ以外のモード : サスペンド/レジューム

Boot、サスペンド/レジュームの切り替えは、タスクバー上の省電力アイコンでも変更できます。

サスペンド機能

サスペンド/レジュームを選択すると、サスペンド機能が有効になります。サスペンド機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。サスペンドの内容は、バッテリーの充電量が減少すると、保持できなくなります。サスペンド機能を設定した状態で動作中にバッテリー充電量が減少したとき、自動的にサスペンド機能を実行します。



お願

・次のような場合はサスペンド機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

・誤った使い方をしたとき

・静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき

・長時間使っていないために、バッテリーが消耗したとき

・故障、修理、電池交換をしたとき

・電源を切った直後にすぐ電源を入れたとき

・バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき

・増設メモリの取り付け/取りはずしをしたとき

・「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していないPCカードを使用している状態で、サスペンド機能を実行すると、エラーが発生することがあります。

☞ 詳細について ☞ 《リリース情報》


[その他] タブ

サウンドやアラームの制御を行います。



・各タブにある [既定値] ボタンを押すと、各項目をご購入時の設定状態に戻します。

● タスクバーへ省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると、現在の省電力モードを示す省電力アイコン  がタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。

● [タイマオン機能] タブ

タイマオン機能の設定を行います。

タイマオン機能とは、指定した時刻・日付に、パソコンを自動起動する機能です。

指定できる日時は、設定当日より 1 年間です。

「簡単インターネット」は、インターネットプロバイダ接続用（オンラインサインアップ用）ソフトを簡単に選択、実行できる便利なソフトです。本製品にインストールされているプロバイダ接続用ソフトは、すべて「簡単インターネット」から選択できます。

起動方法

1 モデムと電話回線を、モジュラーケーブルで接続する

☞ 「4章 5 モデムを電話回線へ接続する」

2 [簡単インターネット] アイコンをダブルクリックする

「モデムと電話回線が、モジュラーケーブルで正しく接続されていることを確認し、[OK] ボタンを押してください」と表示されます。

3 確認し、[OK] ボタンを押す



(表示例)

プロバイダー一覧

本製品にインストールされている、インターネット接続アプリケーションを提供しているプロバイダの一覧です。入会したいプロバイダを選択します。

ダイヤル方式

お使いの電話回線のダイヤル方式（パルスもしくはトーン）を選択します。

パルス：ダイヤル式電話機、「ブツブツ」と音がするプッシュ式電話機

トーン：「ピポパ」と音がするプッシュ式電話機、またはISDN回線をご使用の場合

外線発信番号

市内通話：市内通話で外線に電話をかけるときにダイヤルする番号を入力します。

市外通話：長距離通話で外線に電話をかけるときにダイヤルする番号を入力します。

外線に電話をかけるときに、特定の番号をダイヤルする必要がない場合は、両方のボックスを空白のままにしておきます。

接続開始

設定されたプロバイダのインターネット接続用アプリケーションを起動します。インターネット接続用アプリケーション起動後は、各アプリケーションの指示に従って操作を行なってください。



お願い

- ・インターネットのアクセスは、そのアクセスに応じた電話料金、およびプロバイダへのアクセス料金がかかります。また、プロバイダによっては加入料金、月額の基本料金がかかります。プロバイダへ加入するときは、そのプロバイダへの料金体系などをご理解のうえ加入してください。

Toshiba Hardware SetupおよびHWセットアップは、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

1 Toshiba Hardware Setup (Windows 98 / 95)

● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [Toshiba Hardware Setup]をダブルクリックする
詳細についてはToshiba Hardware Setupのヘルプをご覧ください。

2 HWセットアップ (Windows 2000 / NT)

● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [HWセットアップ]をダブルクリックする
詳細については、HWセットアップのヘルプをご覧ください。

